

みえ森林教育ステーション認定制度 Q&A (Ver. 4)

令和6年4月1日

Q1:みえ森林教育ステーションとは

A1:県産材でできた遊具・玩具、森林や木に関する絵本などが常設してあり、幅広く県民に、森林や木、木材の魅力に触れる機会を提供できる施設を「みえ森林教育ステーション(以下、「ステーション」という。)」として認定します。

県内各地にステーションが設置されることで、この場所に来れば、誰でも、木の遊具や玩具に触れて遊び、木の良さを感じることができ、書籍や啓発資料から木や森林のことを知ることができます。

Q2:ステーション設置先は具体的にどのような施設を想定しているのか

A2:認定要件を満たす施設として、例えば、公民館や子育て支援センターなどの公共施設や、ショッピングセンター内に設置されているキッズスペースなども想定しています。
なお、有料の施設や利用者が限られる施設、および屋外への設置は対象外とします。

Q3:認定の要件は、木製玩具や森林や木に関する書籍などが揃っていないと申請はできないのか

A3:申請できません。

認定には「みえ森林教育ステーション認定要領(以下、「認定要領」という。)」第2条の(1)～(6)のすべての要件を満たす必要があります。認定要件となる資材の全部または一部が不足している場合、別途定める「みえ森林教育ステーション整備支援事業実施要領(以下、「支援事業実施要領」という。)」に基づき、県の支援を受けたうえで認定申請することができます。

Q4:認定の要件に「県産材を使った遊具又は玩具を常設」とあるが、木製の遊具や玩具が県産材を使用したものではない場合はどうすればよいか

A4:すでに設置されている木製の遊具や玩具につきましてはそのまま設置していただきてもかまいませんが、新たに県産材を使った遊具や玩具を追加してください。その場合、「支援事業実施要領」に基づき、県の支援事業を利用することもできます。

Q5:体験スペースの床は木製でないと認定されないのか

A5:体験スペースは木の手ざわり、肌ざわりを感じができる木製の床を想定しています。

床が木製でない場合、また、木製であっても過度な塗装やコーティング加工がなされており、木の感触が伝わらない床の場合は認定の要件を満たさない場合があります。

その場合は、「支援事業実施要領」に基づき、県の支援事業を利用することもできます。

Q6:「支援事業実施要領」第4条の資材の貸与はどのように行われるのか

A6:「支援事業実施要領」第4条第1項(1)県産材の積み木及び(2)木製タイルは、県が選定した資材を貸与します。(3)木製玩具は、県産材の玩具であれば予算の範囲内で5点まで貸与します。別添の

「みえの木育 おもちゃカタログ(一社)三重県森林協会」も参考にできます。(4)書籍については、県が指定する別添の「資料① みえ森林教育ステーション 絵本リスト」及び「資料② みえ森林教育ステーション 書籍リスト」の両方のリストから合計10冊を選定していただき、貸与します。

資材の申込みは、別添の「みえ森林教育ステーション 資材申込書」に必要事項を記入して、三重県林業研究所宛に、Eメールか郵送にて提出してください。(Q16 参照)

Q7:「認定要領」第2条の要件をすべて満たしていても「支援事業実施要領」第4条の資材の貸与を受けることはできるのか

A7:認定を受けようとする施設は、いずれの施設も県の支援事業を利用することができます。

ただし、1認定施設当りの予算や年間予算の範囲内での貸与となります。なお、「認定要領」に基づくステーション認定後は、「みえ森林教育ステーション整備支援事業」(以下「整備支援事業」という。)の利用はできません。

Q8:常設の職員を設置しとあるが、ステーションに担当者を配置しなければならないのか

A8:常設の職員を設置とは、ステーション利用者からの問い合わせ対応や、トラブルが生じた場合に直ちに対応できる体制を想定しています。したがって、無人の施設は不可としますが、施設全体で対応できる体制が整備されていれば可とします。

Q9:「みえ森林教育ビジョン」に基づく森林教育の普及・啓発活動とは、どのようなことを行うのか

A9:未就学児や児童には、玩具を使った遊びや読み聞かせを行うなど、保護者にはステーションや森林・林業について説明するなど、木や森林について興味をもつききっかけとなるように取り組んでいたくことが望ましいと考えています。

Q10:認定要件では管理者の責務として、施設の職員が「みえ森林教育ビジョン」や森林・林業に関する基礎知識についての講習を受講できるよう配慮することとしているが、具体的にどのような講習を受講すればよいか

A10:「みえ森林教育ビジョン」や森林・林業に関する基礎知識については、県の森林・林業担当部署が講習を行いますので、三重県林業研究所(Q16参照)にお問い合わせください。

Q11:みえ森林教育ステーション認定の申請期間は決まっているのか

A11:「みえ森林教育ステーション認定」の申請受付期間は毎年度4月1日～2月15日としています。

ただし、「整備支援事業」における手続きの途中である場合はこの限りではありません。

また、「整備支援事業」の申請受付期間は、認定要件を満たすために希望される資材の製作などに要する時間を考慮し、毎年度4月1日～12月20日としています。

なお、「整備支援事業」は、全体の申請状況によっては、受付期間の終了が早まる場合がありますので、申請を検討される場合には、早めにご相談いただくことが望ましいと考えています。

Q12:県が貸与した資材の使用中の安全管理や衛生管理は認定施設管理者の責務になるのか

A12:認定施設管理者の責務になります。

例えば、安全管理については、ケガの原因となる木製玩具の割れや欠けなどのチェックをこまめに実施することや、施設賠償責任保険への加入など、万が一に備えた対応が必要と考えられます。衛生管理については、換気や手洗い石鹼・消毒薬の設置などの通常の対応に加え、新型コロナウィルス感染症対策などの対応が必要と考えられます。いずれも認定施設管理者の責務です。

Q13:県が貸与した資材の補充や修繕が必要な場合は、認定施設管理者において行うのか。また、紛失や欠損がある場合は直ちに認定が取り消されるのか

A13:補充や修繕は認定施設管理者で行ってください。

ただし、啓発パネルの修繕補充が必要な場合は県が提供します。また、一部紛失や欠損があるからといって直ちに認定を取消すことはありません。認定取消の基準は「認定要領」第8条に定めています。

Q14:施設の運営状況等を情報発信することとあるが、新たにホームページを開設するなどの必要があるのか

A14:ホームページがない場合は、施設の掲示板や地域の配布資料を活用していただくなどの対応でも構いませんが、積極的な対応をお願いします。

Q15:認定要領第4条第3項に、「認定施設の要望に応じ、みえ森づくりサポートセンターを通じて森林教育用具等の貸し出しを行うこと」とあるが、用具を借りたい場合、どこに連絡すればよいのか

A15:認定後の森林教育用具等の借用については、みえ森づくりサポートセンターに直接連絡し、相談してください。

<みえ森づくりサポートセンター>

〒515-2602 津市白山町二本木 3769-1

三重県林業研究所交流館内

TEL : 059-261-1223 FAX : 059-261-4153

E-mail : miemori@zc.ztv.ne.jp

web.<http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc/>

Q16:みえ森林教育ステーションに関する連絡先・問い合わせ先はどこか

A16:三重県林業研究所 普及・森林教育課です。

< 三重県林業研究所 普及・森林教育課 >

〒515-2602 津市白山町二本木 3769-1

TEL : 059-262-5352 FAX : 059-262-0960

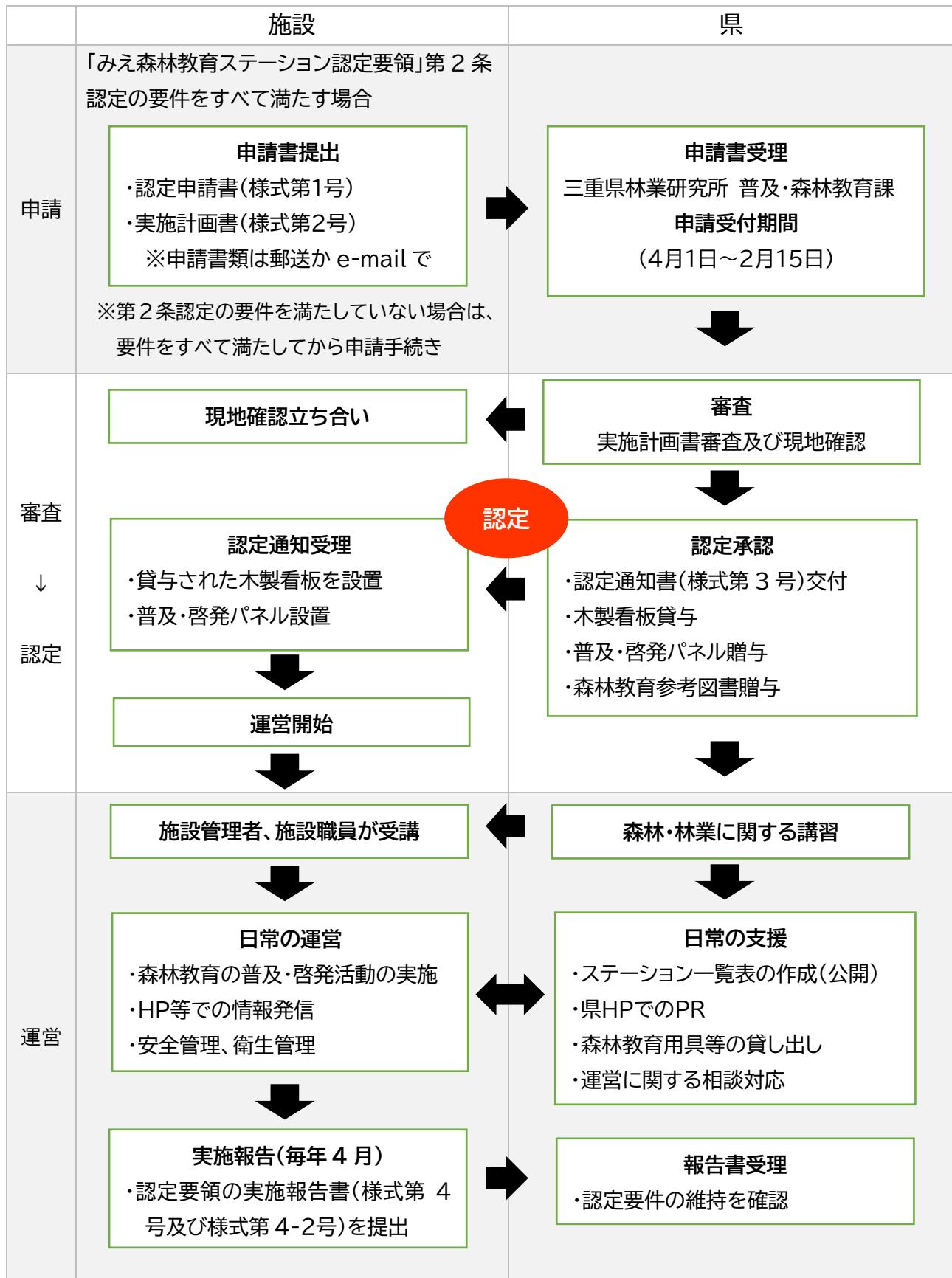
E-mail : miefa2@pref.mie.lg.jp

※別添資料

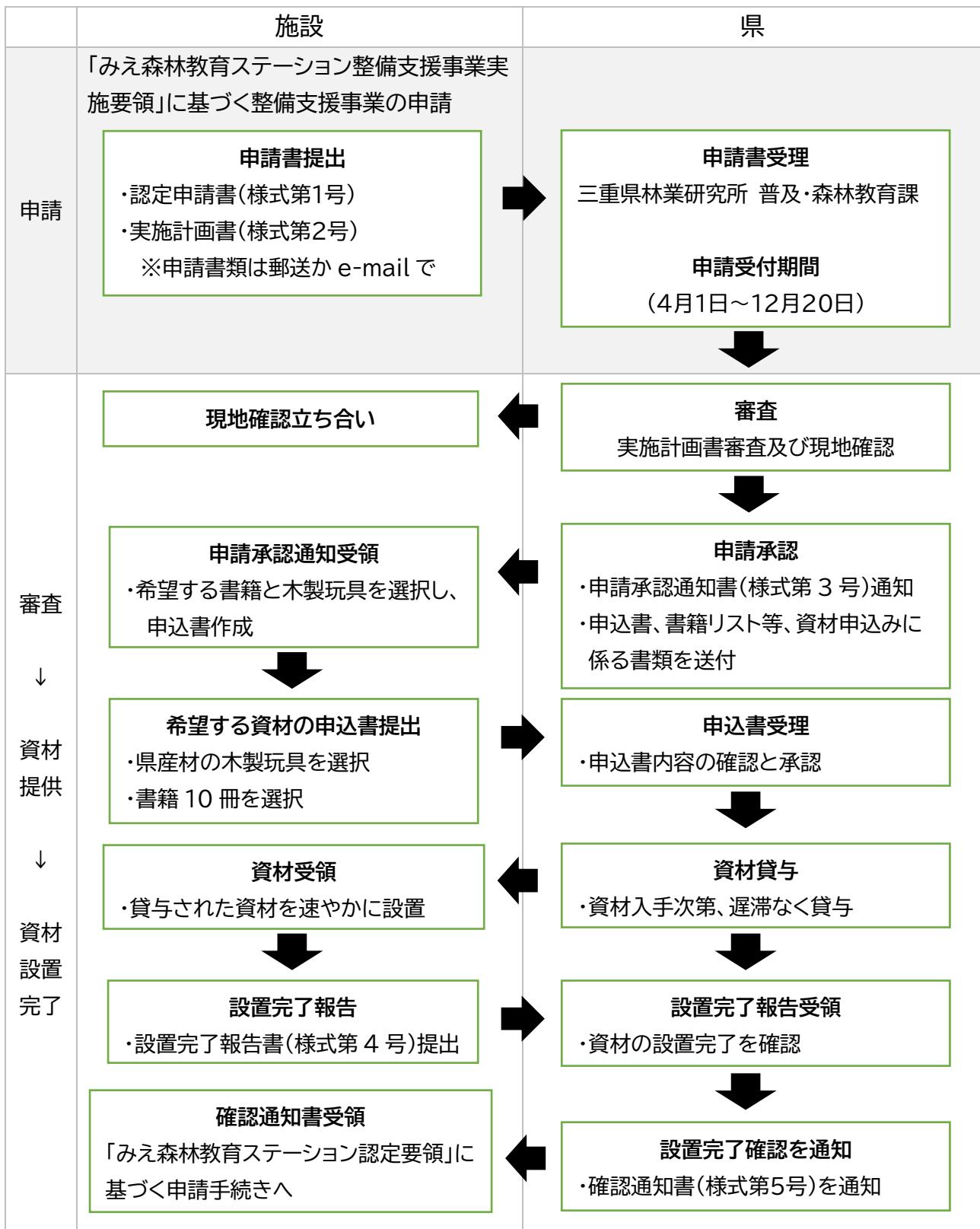
- ・みえ森林教育ステーション 資材申込書
- ・資料① 三重森林教育ステーション絵本リスト
- ・資料② 三重森林教育ステーション書籍リスト
- ・みえの木育 おもちゃカタログ(一般社団法人 三重県森林協会)

みえ森林教育ステーション認定制度のフロー

1.「みえ森林教育ステーション認定要領」に基づくフロー



2. 「みえ森林教育ステーション整備支援事業実施要領」に基づくフロー



令和 年 月 日

三重県林業研究所
普及・森林教育課 あて

別紙

(認定対象施設等の代表者)

みえ森林教育ステーション 資材申込書

1 書籍(絵本リストと書籍リストの両方から合計10冊を選択)

	書籍名	出版社
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

2 木製玩具(予算の範囲以内5点まで選択可)

	品名・製品	金額(税込)
1		円
2		円
3		円
4		円
5		円
	合計金額	円

【木製玩具内訳】

①	品名	
木製 玩具 1	製品・仕様	
	価格 (税込)	
	製造者・ 販売者	
	特記事項	

②	品名	
木製 玩具 2	製品・仕様	
	価格 (税込)	
	製造者・ 販売者	
	特記事項	

③	品名	
木製 玩具 3	製品・仕様	
	価格 (税込)	
	製造者・ 販売者	
	特記事項	

④	品名	
木製 玩具 4	製品・仕様	
	価格 (税込)	
	製造者・ 販売者	
	特記事項	

⑤	品名	
木製 玩具 5	製品・仕様	
	価格 (税込)	
	製造者・ 販売者	
	特記事項	

資料① みえ森林教育ステーション 絵本リスト

NO	タイトル	出版社	内容紹介
1	ふゆめがっしょだん	福音館書店	「みんなは みんなは きのめだよ」と合唱団が歌います。春を待ちわびるよう、「パッパッパッパッ」と、木の芽たちが個性的な顔で歌います。冬の公園や雑木林で、木の芽を見てみると動物や帽子をかぶった子どもの顔のように見えます。目や口に見えるところは、おにぐるみ、えのき、ねむのき、くわなどの落葉した葉の柄がついていた跡です。木の芽の冬姿を拡大して撮影した愉快な写真絵本です。
2	もりのかくれんぼう	偕成社	家へ帰る途中、幼いケイコは見知らぬ森にまよいこみ、動物たちと大好きなかくれんぼをします。抜群に楽しいかくし絵の絵本。
3	14ひきのひっこし (シリーズ第1作)	童心社	人気ロングセラー絵本「14ひきのシリーズ」の第1作。ねずみの家族があたらしいすみかを求めて森へひっこし、木の根元に家づくりをするこの作品から、シリーズの物語がはじまります。
4	かわ	福音館書店	高い山の雪どけ水や、山に降った雨から生まれた小さな流れは、谷川となって山を下ります。小さな流れは、ダムに貯められて発電所で電気を起こしたり、激しい水の勢いで岩をくだいて小さな石ころにしたりします。そして、やがて平野に出るとゆるやで大きな流れになります。田んぼを潤し、水遊びや魚釣りの場となり、いつしか大きな川になって、最後に海へとそぞります。一つの川をめぐる自然と人間の営みを横長の画面いっぱいに細部まで描き込んだ絵本です。
5	森を育てる生き物たち	岩崎書店	森には葉っぱを食べる虫や、実を食べるけものがいる。それでも、森が枯れることはない。どうしてだろう？ 昆虫を中心とした森の生きものの暮らしを紹介します。
6	もりのてぶくろ	福音館書店	きれいな黄色の葉が1枚、森の小道に落ちていました。その葉はまるで、てぶくろのような形をしています。ネズミがやってきて、そっと手をあてました。でもネズミの手にはちょっと大きい……。ウサギやキツネ、クマもやってきて、自分の手と葉の大きさをくらべていきます。このきれいな黄色い葉にぴったりなのは、だれの手なのでしょう？ 1枚の葉をめぐって繰り広げられる、秋の森を舞台にした心温まるお話です。
7	ぽつとんころころどんぐり	童心社	秋にひろくぬぎのどんぐりは、春や夏、どうなってるの？ くぬぎのどんぐりがどうやってうまれ、新しい木に育つか、迫力あるイラストで紹介。どんぐりクッキーのつくり方、どんぐりを使った遊びなども掲載されています。
8	落ち葉	福音館書店	秋、木の葉は一枚また一枚と、ときには一斉に風にとばされて、枝を離れます。林や、道や、庭で出会った美しい落ち葉を描いた絵本
9	おちばいちば	ブロンズ新社	さっちゃんが幼稚園で作ったどんぐりのお馬さんが、突然歩き出しました。追いかけているうちに、いつのまにかお馬さんの背中に乗っていたさっちゃん。着いた先は、たくさんの虫や動物たちで賑わう「おちばいちば」で…。
10	たったひとつのドングリがすべてのいのちをつなぐ	評論社 2018.3	ドングリこそ、すべての植物と動物の命をつなぐもと-。たったひとつのドングリが、木に育ち、その木に鳥が巣を作り、落ちた種から花が咲く…。美しいイラストと簡潔なことばで命の連鎖を描いた絵本。
11	ふようどのふよこちゃん	理論社	ふようどは、林の落ち葉の下で、ほっかりゆっくり育った、できたての土のこと。だから、ふようどのふよこちゃんはとってもいい匂い。今日も元気にお山をお散歩だ!
12	めぐる森の物語	BL出版	ぼくは、ふと目にしたウサギのあとを追いかけて、荒れ地にやってきた。そこでは、ウサギたちが、どんぐりを地面に埋めていて…。繊細な絵で紡ぐ、いのちの物語。

NO	タイトル	出版社	内容紹介
13	はじまりはたき火 火とくらしてきたわたしたち	福音館書店	暗い夜を明るく、寒い冬を温かくしてくれる「火」。わたしたちは、ずっと昔から火とともにくらしてきました。火のあるくらしが始まったのは…。限りある資源と、わたしたちのくらしについて考えるきっかけとなる絵本。
14	地球の森のハートさがし (ふしぎいっぱい写真絵本 32)	ポプラ社	森に行くと、いろんなハートが見つかるよ! 赤いハート、みどりのハート、きいろのハート、小さなハート、とがったハート…。自然の中で見つかるさまざまなハートのかたちを写真で紹介します。
15	きりばあちゃんのともだち	小学館	年をとって切られ、切り株になった木に、たんぽぽが話しかけてきました。切り株のきりばあちゃんは、木だったころの話をたんぽぽに話して聞かせました。「高いところからの景色を見てみたい」と言っていたたんぽぽは…。

資料② みえ森林教育ステーション 書籍リスト(主に小学校中高学年対象)

No.	書名 (各巻書名)	著者名	出版社 出版年	内容紹介
1	子どもに伝えたい和の技術 8 (木づくり)	和の技術を知る会／著	文溪堂 2017.9	古来より続き、新しく未来へ受け継がれていく、日本のさまざまな「技術」を紹介。8は、「木づくり」をテーマに、木を植え、育て、伐採して利用する様々な優れた技術を、写真満載で解説する。
2	山に木を植えました	スギヤマ カナヨ／作 畠山 重篤／監修	講談社 2008.5	森でうまれて川をながれ、とおいとおい海まで旅をするフルボ酸と、鉄と、栄養には、とっても大切なひみつがありました…。森と海、人と自然のつながりを描く。
3	森・川・海つながるいのち	畠山 重篤／著 宍戸 清孝／写真 末藤 久美子／絵	童心社 2011.1	森と海のつながりの大切さに気づいた人たちの手で、山や森林の保全活動が行われている。気仙沼湾の植林運動「森は海の恋人運動」を紹介しながら、環境問題を考える新たな視点を提供する。
4	わたしたちの地球環境と天然資源 2	本間 慎／監修 こどもくらぶ／編	新日本出版社 2018.5	地球の貴重な資源を6つのテーマにして、それぞれにどんな問題があるのかを見していくシリーズ。2は、「森を取り上げる。問題を更に深く掘り下げ、関連情報等を紹介した「もっと考えよう」のページあり。用語解説つき。
5	本当はすごい森の話	田中 憲次／著	少年写真新聞社 2016.12	人間の暮らしと日本の森林、森林の働き、これまでの林業とこれからの林業…。東京都西多摩郡檜原村に長年暮らし、林業に携わってきた著者が、林業人生で得られたことを中心にまとめた。見返しに地図あり。
6	木と日本人 1 (材木-丸太と板)	ゆのき ようこ／監修・文 長谷川 哲雄／樹木画	理論社 2015.9	森の多い国・日本で、木がどのように使われてきたかを、木の部分ごとに紹介するシリーズ。1は、材木をテーマに、わたしたち日本人が丸太や板からつくってきたものを見ていきます。
7	木と日本人 3 (葉や花、実と種)	ゆのき ようこ／監修・文 長谷川 哲雄／樹木画	理論社 2016.3	森の多い国・日本で、木がどのように使われてきたかを、木の部分ごとに紹介するシリーズ。3は、葉や花、実・種を、人々が衣食住にどのように利用してきたかを解説し、炭や灰の利用についても見ていきます。
8	みぢかな樹木のえほん	国土緑化推進機構／編 平田 美紗子／絵	ポプラ社 2018.3	樹木には多くの生きものが訪れ、それぞれが深く関わっている。また人間も木造住宅の材料などとして樹木を利用している。30種の樹木を選び、基本的なデータから生きもの・くらしとのつながりまでをイラストを用いて説明する。

No.	書名 (各巻書名)	著者名	出版社 出版年	内容紹介
9	きほんの木 花がきれい	姉崎 一馬／写真 姉崎 エミリー／文	アリス館 2019.4	日本には、野山に生える野生の木が1000種類あります。そのなかから、サクラ、シイ、ツツジ、ネムノキなど、花がきれいで目立つ木10種類を取り上げ、写真とともに紹介します。
10	きほんの木 大きくなる	姉崎 一馬／写真 姉崎 エミリー／文	アリス館 2019.9	日本には、野山に生える野生の木が1000種類以上あります。そのなかから、ケヤキ、スギ・ヒノキ、カエデ、ブナ、カバノキなど、とくに大きくなる木10種類を取り上げ、写真とともに紹介します。
11	どんぐりノート	いわさ ゆうこ／作 大滝 玲子／作 渡嘉敷 裕／監修	文化出版局 1995.1	クヌギ、コナラ、ブナやシイなどどんぐりの仲間をイラストと写真で詳しく紹介。どんぐりの木の葉花、自生地から、主食とされていた縄文時代の話、どんぐりを使った遊びや料理の紹介まで、まるごと一冊どんぐりの本。